

2019年5月12日(日) 第二主日礼拝 黄昌性牧師 Iヨハネ5:13-21

この世にあるものは「内容」と「形式」によってあらわすことができる。スマートフォンで言えばその「内容」は情報通信で、「形式」はその形である。車であれば「内容」は移動するための機能で、「形式」は車の材質である。通話できないスマートフォン、運転できない車は、使うことができない、いわば、死んだものである。では教会の「内容」と「形式」とは何であろうか。「内容」は祈る場であること、「形式」はその建物である。人間は神によって作られた。人間は神によって創造されたのであり自分から人生を作り出したわけではない。人間が生きているとは、「息をしている」ことである。神において人間における創造目的は何であろうか。それが「神に祈ること」であるとすれば、神に祈れない者は死んでしまった者であるかもしれない。永遠の命とは何であろうか。今朝の御言葉には「知る」、「わかる」といった言葉が何度も出てくる。13節「悟らせる」、18-20節「知っています」など。ヨハネがこの書を書いた目的は何だったのであろうか。この手紙の受信者が、キリストが永遠の命であることを「知っている」ということである。

永遠の命に関する御言葉を見ていきたい。

Iヨハネ1:1-2「初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て、手で触れたものを伝えます。すなわち、命の言について。この命は現れました。御父と共にあったが、わたしたちに現れたこの永遠の命を、わたしたちは見て、あなたがたに証しし、伝えるのです。」

ローマ 6:23 「罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。」

ヨハネ 3:16 「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

さて、I ヨハネ 5: 14-15 を見ると、「何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確信です。わたしたちは、願い事は何でも聞き入れてくださるということが分かるなら、神に願ったことは既になんか叶えられていることも分かります。」とあり、我々が望むことを神がかなえてくださると信じることはすでになんか叶えられていることであると語っている。

マルコ 11:24 も「だから、言うておく。祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる。」と語る。しかし、何でも叶えられるのではなく、神の御心に適うことを祈るならば、である。祈りとは、神の御心に適う祈りのことである。

ヤコブ 4:3 「願い求めても、与えられないのは、自分の楽しみのために使おうと、間違った動機で願い求めるからです。」自分の楽しみとは罪のことである。

I ヨハネ 5:16-17 「死に至らない罪を犯している兄弟を見たら、その人のために神に願いなさい。そうすれば、神はその人に命をお与えになります。これは、死に至らない罪を犯している人々の場合です。死に至る罪があります。これについては、神に願うようにとは言いません。不義はすべて罪です。しかし、死に至らない罪もあります。」信仰告白によって確

信を持って祈りつつ我々には常に罪とのたたかいがある。罪とは神との関係を阻むもの、御心に反するもの。Mortal Sin とは、この世の死ではなく神の恵みを失うことによって至る永遠の死のことであり、イエスを神の子であると認めない者における死である。

マルコ 3:28-29「はっきり言うておく。人の子らが犯す罪やどんな冒涇の言葉も、すべて赦される。しかし、聖霊を冒涇する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う。」

使徒 5:9-10「ペトロは言った。『二人で示し合わせて、主の霊を試すとは、何としたことか。見なさい。あなたの夫を葬りに行った人たちが、もう入り口まで来ている。今度はあなたを担ぎ出すだろう。』

すると、彼女はたちまちペトロの足もとに倒れ、息が絶えた。青年たちは入って来て、彼女の死んでいるのを見ると、運び出し、夫のそばに葬った。」

I コリ 11:29-30「主の体のことをわきまえずに飲み食いする者は、自分自身に対する裁きを飲み食いしているのです。そのため、あなたがたの間に弱い者や病人がたくさんおり、多くの者が死んだのです。」

イザヤ 59:1-2「主の手が短くて救えないのではない。主の耳が鈍くて聞こえないのでもない。むしろお前たちの悪が／神とお前たちとの間を隔て／お前たちの罪が神の御顔を隠させ／お前たちに耳を傾けられるのを妨げているのだ。」

ヘブライ 6:5-6「神のすばらしい言葉と来るべき世の力とを体験しながら、その後に墮落した者の場合には、再び悔い改めに立ち帰らせることはできません。神の子を自分の手で改め

て十字架につけ、侮辱する者だからです。」死に至らない罪は赦される。反キリスト者とは偽り者のことである。我々人間の「形式」は神、「内容」は神の者として造られたということである。ヨハネの手紙はすでに信じている人たちへの再びの戒めとして記された。

神の真理を知る力は御言葉によって与えられる。我々はすでに知っている者たちである。

I ヨハネ 5:18-20 には「知っている」という言葉が 3 回書かれている。ギリシャ語で「キノスクネ」とは「知る力」。キリストの霊をいただき平和と恵みをいただいていることを知っている。永遠の命の内に触れ、学ぶことによって力を得るのである。

I ヨハネ 5:21 「子たちよ、偶像を避けなさい。」祈ることのできない自分の姿がある場合、いろいろな形の偶像に惑わされているかもしれない。偶像とは人が手で作った像、神の代わりに人の心を支配するものである。

申命記 4:28 「あなたたちはそこで、人間の手の業である、見ることも、聞くことも、食べることも、嗅ぐこともできない木や石の神々に仕えるであろう。」神の似姿であるはずの人間が偶像に支配される。

コロ 3:5-6 「だから、地上的なもの、すなわち、みだらな行い、不潔な行い、情欲、悪い欲望、および貪欲を捨て去りなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。これらのことのゆえに、神の怒りは不従順な者たちに下ります。」礼拝で祈れないとき、偶像すなわち地上的なものに心が奪われているときであるかもしれない。

エフェソ 2:2-3 「この世を支配する者、かの空中に勢力を持つ者、すなわち、不従順な者た

ちの内に今も働く霊に従い、過ちと罪を犯して歩んでいました。わたしたちも皆、こういう者たちの中にいて、以前は肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していたのであり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした。」

神の「内容」と「形式」にないものは罪である。罪の代償は死である。キリストは神から生まれた。その似姿をいただいた我々。その我々に「自分自身も含めてすべての人のために祈りなさい」という、神から生まれた者たちへのメッセージが今朝の御言葉である。